

EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社Study Valley

【ツール名】

Time Tact

【ツールの機能分類】

発展的な学び

2023年2月



「探究」にフォーカスした 社会と繋がる教育

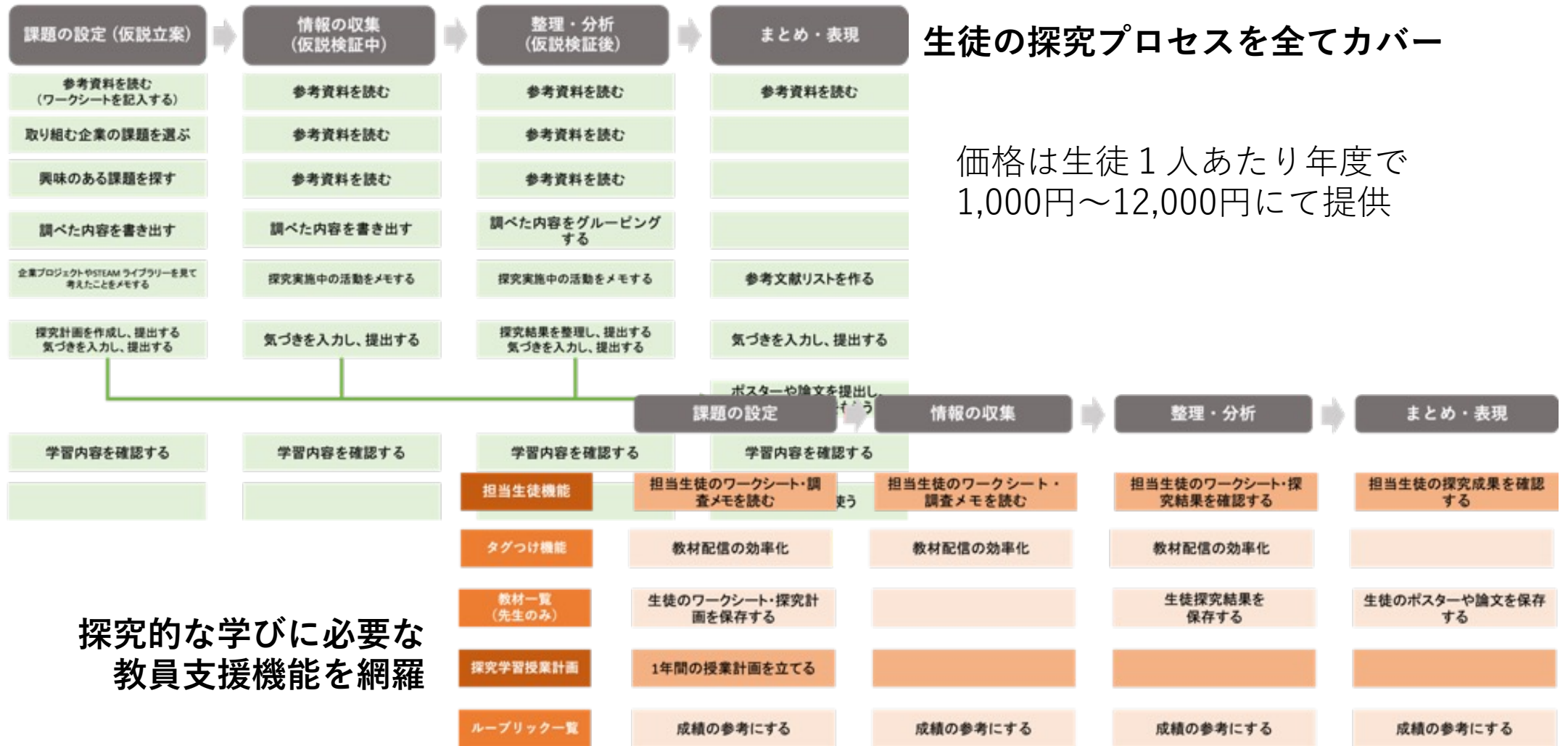


■ EdTech ツールの概要

総合的な探究の時間（以下「探究学習」）に合わせ、課題の設定からまとめ・表現までのプロセスを全て網羅
 生徒の学びの効果の最大化だけでなく、教員の負荷を大幅に軽減する機能を提供

生徒の探究プロセスを全てカバー

価格は生徒1人あたり年度で
 1,000円～12,000円にて提供



探究的な学びに必要な
 教員支援機能を網羅

■ EdTech ツールの概要

1 学期

探究を行う準備・探究の基礎

- ・よいチームづくり
- ・探究の方法を知る

身近なテーマを題材に探究学習の面白さを知る

身近な課題 TimeTact
様々な探究コンテンツ

異なる意見を持つ人々たちとどのように協働し、意見をまとめていくかを学ぶ

探究学習のサイクルを学び、調査方法、問いの立て方、アイデアの出し方を学ぶ



学校がかかえている課題や、友だちや家族がかかえている課題に挑戦をし、探究学習の面白さに気づく



2 学期・3 学期

探究を行う

自分の興味関心や社会課題

社会課題を知る

情報収集

整理・分析

まとめ・発表



企業プロジェクト

企業がどんな課題をもっているのか、自分自身が興味のあるテーマを閲覧しながら決めます

企業の課題背景などや、現在取り組まれていることを知ることができます



あいである

付箋などのツールを使用して、アイデアを発散することが可能です。グループで意見を出し合い、更にこの付箋を記録することができます

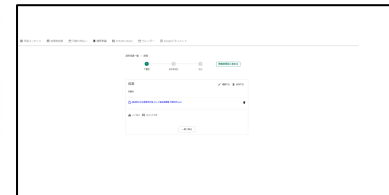


調査メモ



探究成果物

成果物について、学校内で終わらせることなく、企業へご提案し、フィードバックをもらうことも可能です



■ 学校等教育機関の抱える課題



今年から学年の探究担当になったけど前任者からの引き継ぎがあまりなくて、**状況把握だけで手一杯**



答えのない問いを考えるための探究学習のカリキュラムに、**答えを求めがち**

探究学習を推進する上で、**学習を通じた成果を出すのが一番**だが、後ろ向きなスタンスの先生のクラスでなかなか成果が出ない



クラスによって進捗も違うし、全体で同じカリキュラムではなかなか難しい。かといって、**カリキュラムをバラバラにすると管理が大変**



■ 学校等教育機関の抱える課題

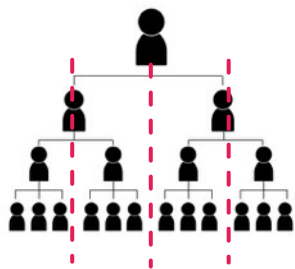
現在

①学習ログ



全く取得できていない状況

②評価指標



学校ごとが縦割りとなっており、学校間の情報共有が難しい場合がある

未来

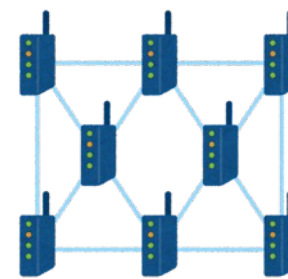
①学習ログ

①-1 能動的ログの取得

①-1 受動的ログの取得



②評価指標



組織横断
指標の共有と改善
→教育データの活用による
評価の一般化

ギャップ解消のための主要論点

- ①学習ログの利活用が”主に”生徒向けとなっているため学習ログ取得機会獲得のための教員訴求が弱い
- ②教科科目については、プロセス評価しなくとも結果指標としての試験があるためニーズが弱い

■ 学校等教育機関の抱える課題

教育データ利活用の課題

i) 教科科目(学ぶ事が中心)



目的変数が明確→既に確立済み

ii) 探究科目



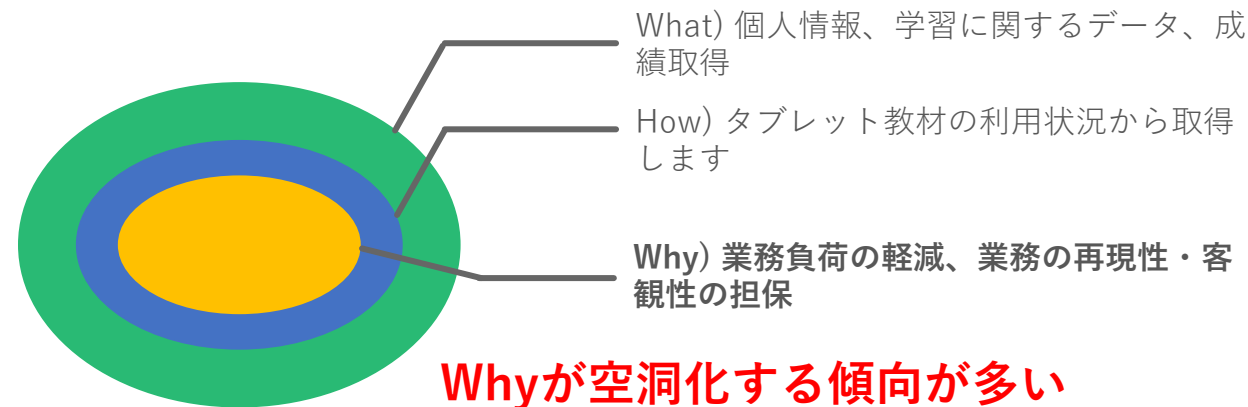
学習者が中心

→目的変数が明確でない

→興味関心のスコアリングが必要

教育データ利活用のポイント

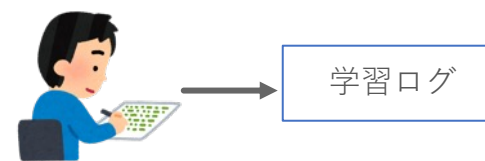
i) データ取得の合理性担保



ii) データ取得方法の選択性

①能動的なデータ取得
学習者自らがログデータを入力→意識的なログ

②受動的なデータ取得
学習者がサービスを利用する過程で蓄積→無意識的なログ



■ EdTech導入補助金2022における活用事例

前述の「ひなた探究」をベースに地域と密着した探究学習の実現が拡大中
本補助金を活用した学校への展開が、企業参画を後押し



探究成果発表会 WE ♥ HELP はいさい探究

沖縄テレビ、Study Valleyにて、今後県内高校への探究学習支援、県内企業と県内高校を探究でつなぎ、新しい地域価値の創造を目指します。

参加のメリット

- 沖縄県内の地元企業のお話を聞くことができます
- 探究学習の質の向上を見込めます
- 優秀な発表チームへの表彰を予定しています

他県(宮崎県)での実績結果

県内高校2割、企業8社が探究成果についてディスカッション

YES 100% 学校・生徒の地域企業探究への興味

YES 100% 企業の探究への関心

日時 2023年 2月18日(土) 13:00-17:00

場所 オンライン

沖縄テレビ 主催：沖縄テレビ放送株式会社・株式会社Study Valley
Email: welcome@studyvalley.jp

各地で探究発表
イベントを主催

提携テレビ局

UMKテレビ宮崎

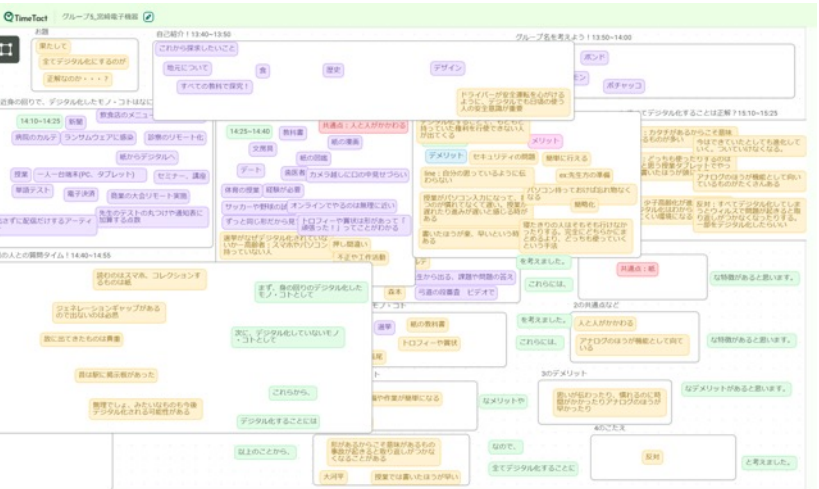
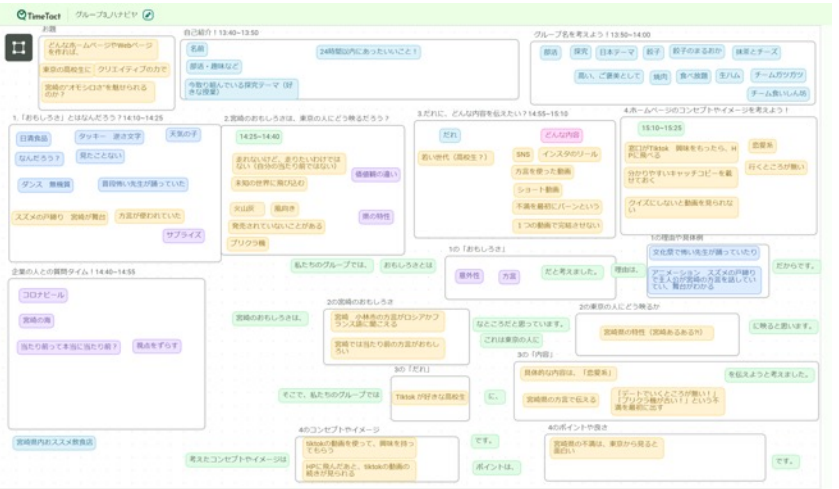
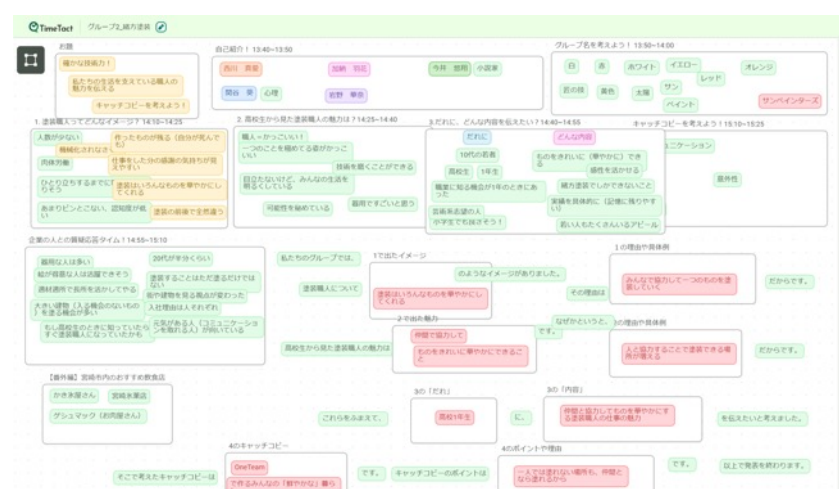
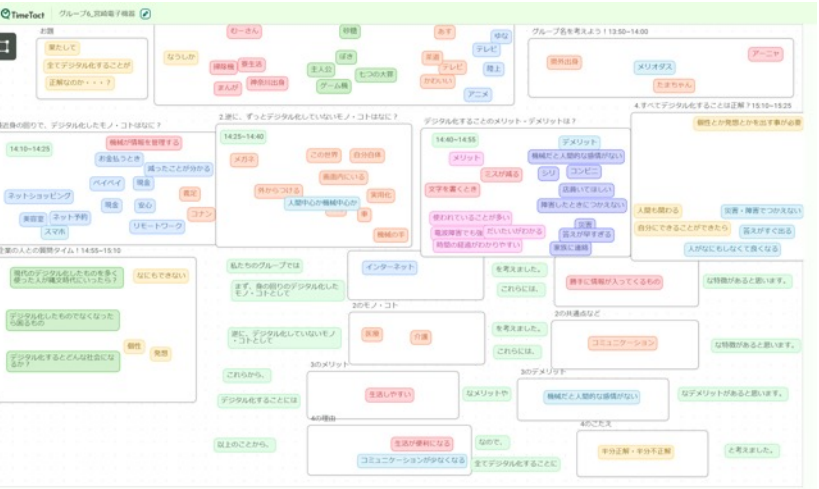
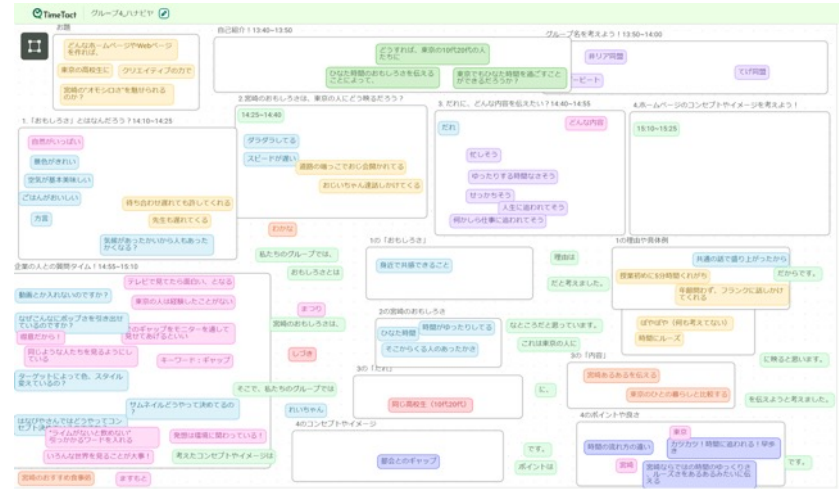
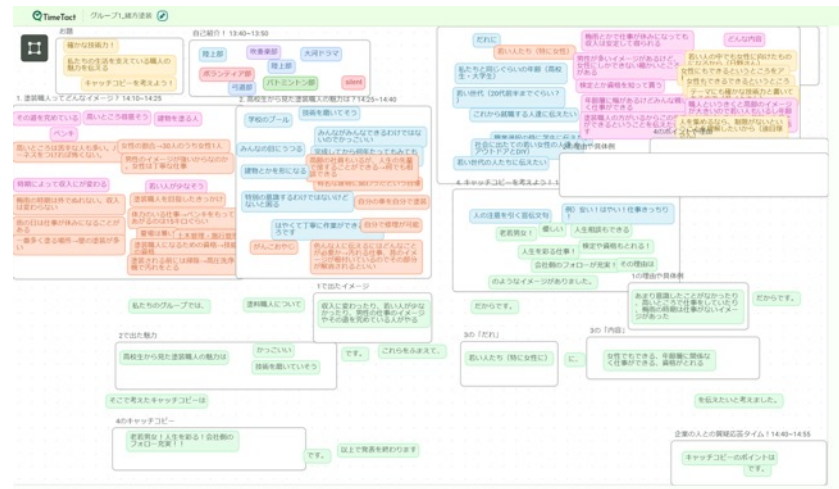
8 OTV

TVCテレビ西日本

ND! テレビ大分

EdTech導入補助金2022における活用事例

企業が提供する探究テーマをEdTechツールTimeTactを活用し、遠隔で生徒同士が議論全てをデジタル化するのは正しいか、等社会に開かれた探究的な学びを実施



■ 補助事業において実施したサポート内容

各校専任のアドバイザーが計画策定から実施支援・振り返りまで一気通貫でサポートし担当の先生の支援を行います。
※プランによってサポート内容が異なります。



具体的な弊社のサポート内容（例）

授業カリキュラムの設計

毎学期/毎時間の授業設計～サポート

教材/ワークシートの準備

Time Tactの活用方法の提案

進捗状況の確認・修正計画の提案・修正教材/ワークシートの準備

※授業代行/サポート

※ループリックを活用した評価サポート

etc…

■ 補助事業において実施したサポート内容



様々な探究コンテンツ



データ連携



TimeTactにて学習進捗管理を実施→学習データの連携



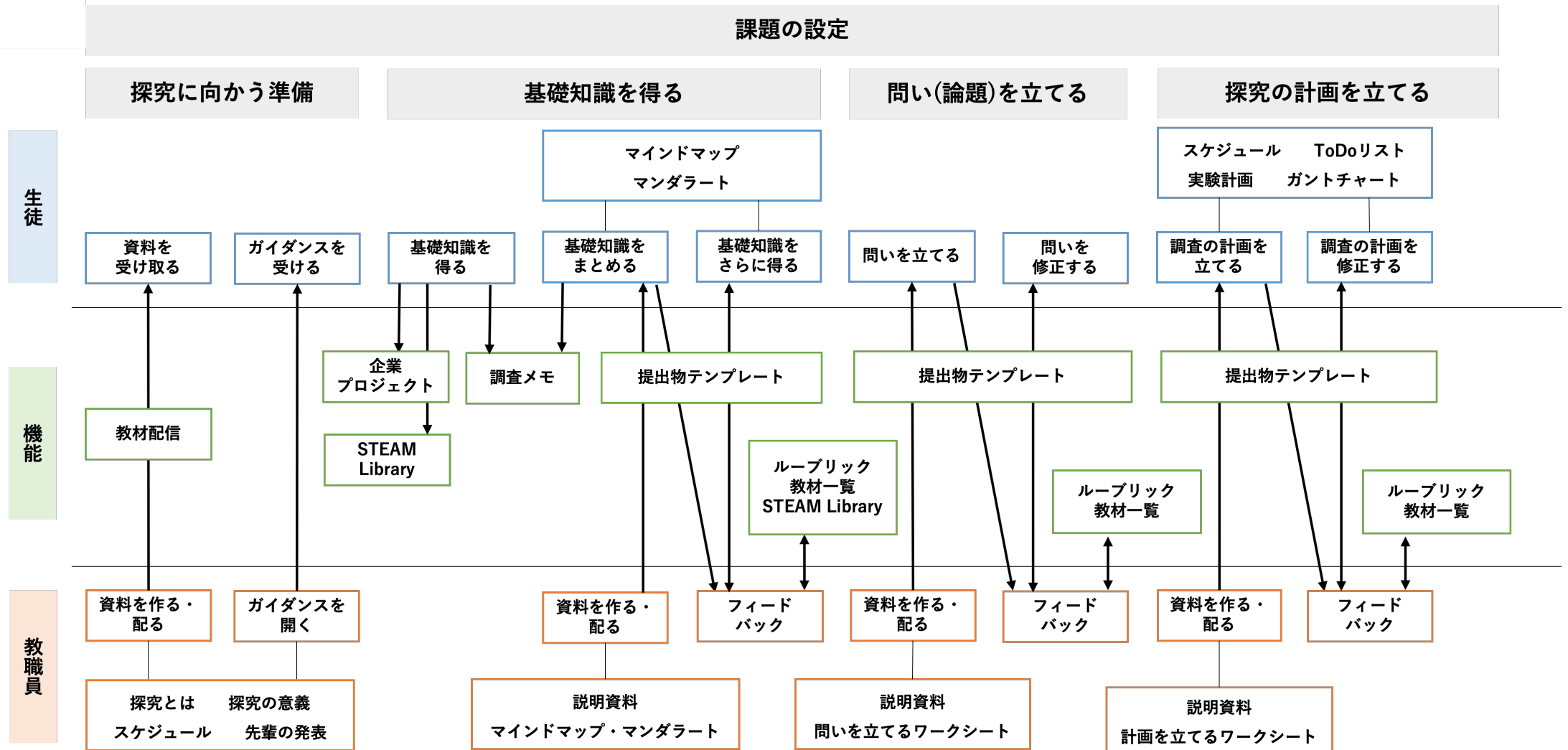
データ取得



取得データを元に指導支援

■ 補助事業において実施したサポート内容

探究活動において最も重要な「課題の設定」においてTimeTactを活用
探究の準備から計画立てまでをシステムでサポート



教育委員会：5団体
学校数：26校(全て高等学校)
生徒数：約5,700人

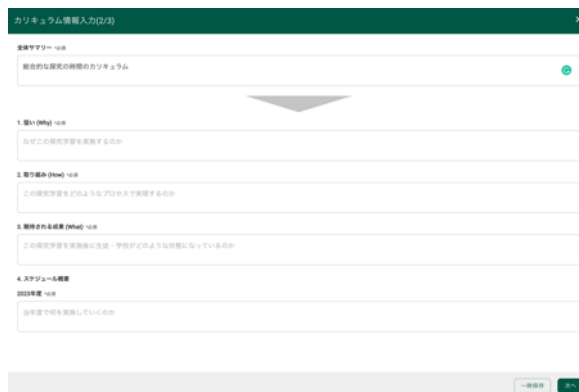
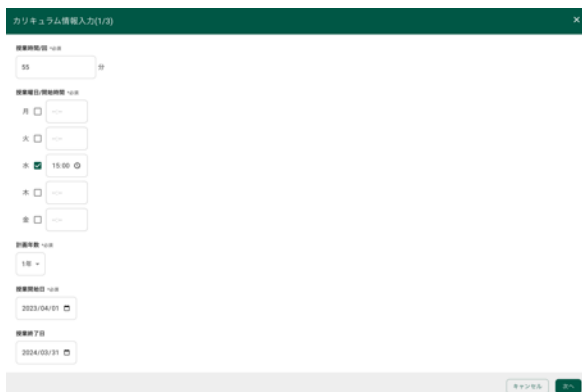
宮崎県立本庄高等学校
宮崎県立宮崎西高等学校
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校（中学）
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校（高校）
宮崎県立高鍋高等学校
東京都立篠崎高等学校
東京都立田無高等学校
東京都立小台橋高等学校
宮崎学園高等学校
宮崎日本大学高等学校
東京都立上野高等学校
宮崎県立都城西高等学校
神奈川県立横浜氷取沢高等学校
宮崎県立小林高等学校
宮崎県立飯野高等学校
宮崎県立宮崎南高等学校
神奈川県立大磯高等学校
宮崎県立都城商業高等学校
東京都立小笠原高等学校
宮崎県立福島高等学校
広島県立廿日市高等学校
神奈川県立大井高等学校
神奈川県立山北高等学校
神奈川県立小田原高等学校
東京都立稔ヶ丘高等学校
埼玉県立桶川高等学校

EdTechツールによる活用効果

年間の
流れ



ツールによる
支援



人的サポート
(学び支援)

③-1 年間の流れ

	4-8月	9-12月	1-3月	
目的	テーマを設定 テーマの概要を 調べる	リサーチとディスカッション →確認して	研究課題作成 研究発表準備	研究活動のまとめ 発表の作成
ゴール	マンダラート等を使って 研究の事を書き出す	リサーチとディスカッション 作成	ワークシートを使って 研究課題を作成 作成したワークシートをメン ターに提出する	ポスターを作成 ポスターセッション メンターセッション
期待する 成果物	ワークシート① (マンダラート) ワークシート② (リサーチの調べ)	ワークシート③ (リサーチとディスカッション)	ワークシート④ (研究発表)	ポスターセッション ① 発表資料 ② 論文 (2,000文字)
コア数	5コアあり	満足	満足	

③-2 1学期の流れ

回数	実施事項
1回目 (4/13)	イントロダクション 個人ワーク「ポスター」 ワークシート①の作成、作成したワークシートを先生に見てもらってフィードバック、ワークシート②の作成
2回目 (4/20)	調べ学習確認、他
3回目 (5/11)	個人ワーク ワークシート③の作成
4回目 (5/15)	グループワーク 作成したワークシート③を先生に見てもらってフィードバック、ワークシート④の作成 (TimeTextで発表)
5回目 (5/22)	個人ワーク ワークシート④の作成/発表

9/12 授業(案)

この時間のゴール Google検索ができる
Googleドキュメントで文字の入力と写真の貼り付けができる

時間	活動	評価
100	マンダラートを作成する 生活のゴールを設定する マンダラートを作成する Google検索で調べたこと Googleドキュメントで書き出す	観察タイプF1
110	マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する	観察タイプF1
120	マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する マンダラートを確認する	観察タイプF1

年間授業計画の設計および練り直しと他教員への共有や生徒への配布を自動化
従来(支援後)：授業計画策定66h(10h) 配布作業50h(2h)=平均90%の業務時間の削減

同効果による代替作業例：カリキュラムの作り込み、生徒ごとの支援計画 (教員の本質価値最大化)

■ EdTechツールによる活用効果

年間の
流れ

Plan

年間の授業計画

Do

毎授業実施

Check

評価業務

Act

振り返り・次年度計画

ツールによる
支援



教員作成教材の管理・配布を最適化



独自デジタル教材の作成支援

人的サポート
(学び支援)

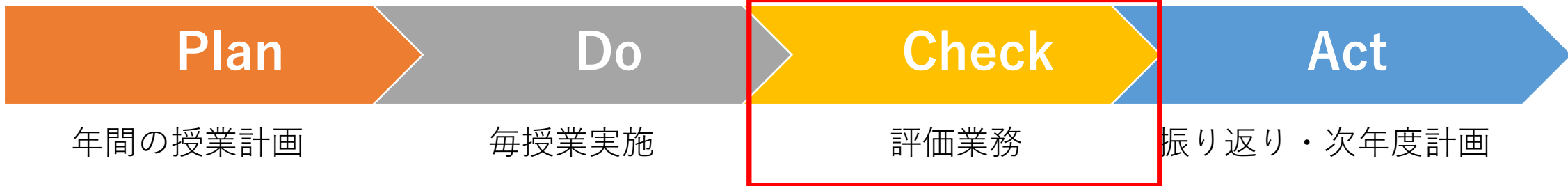


ワークシート
作成補助

毎授業で活用可能なTimeTact機能を順次活用。既存教材不足分については作成支援
従来(支援後)：授業準備16h(3h) 授業後回収作業等10h(1h)=平均85%の業務時間の削減
同効果による代替作業例：次回授業計画等毎授業のPDCAサイクルの高速化（教員の本質価値最大化）

■ EdTechツールによる活用効果

年間の
流れ



年間の授業計画

毎授業実施

評価業務

振り返り・次年度計画

ツールによる
支援

学習指導要領項目	観点	5	4	3	2	1
知識及び技能	身の回りのもの がどのような素材・ 製造でできている かを整理すること ができる。	問いかけに対して 解決策の見出しが できている	問いかけに対する 点を挙げており、 まとめられている	問いかけに対する 点が挙げており、 整理できている	問いかけの内容を 理解できていない	自分では何もしな い
思考力・表現力・判断 力	身の回りのもの がどのような素材・ 製造でできているか の観点について、検討 し、意見を伝える ことができる。	問いかけに対する 意見をまとめ、他 の意見との関係が できる	問いかけに対する 意見を判断に依 え、まとめること ができる	問いかけに対する 意見を判断でき ない	問いかけに対する 意見を伝えられ ず、意見の交換が できない	自分では何もしな い
学びに向かう力・人間 性	社会課題を身の回 りのもの素材・ 製造で解決するた めに必要な方法を 考え、他の人々と 協働して新たな課 題を提出すること ができる。	自分の意見の発 達だけでなく他 の意見の聴取方法も 構築している	問いかけに対する 発達の意見を提 言することができる	問いかけに対して 第三者的で自分 自身がすべきこと が理解できない	問いかけの内容を 理解できず、一方 的な意見しか提 言できない	自分では何もしな い



生徒別ログ	
もっと見る	
田中 悠樹	
2022年11月10日 16:22	田中悠樹さんが談広告さんとはの探究成果を教職員確認に進めました
2022年10月19日 15:18	田中悠樹さんが高大連携における入試の取り扱いに関する解決手段提案の探究成果を教職員確認に進めました
2022年10月11日 18:20	田中悠樹さんがYMZOP 地域創生 レクチャー1 ワークシートの探究レポートを提出しました
もっと見る	
流 樹里	
2022年11月08日 16:57	流樹里さんがあの探究成果を教職員確認に進めました

ルーブリックの作成支援およびルーブリックと学習ログを紐付けることで業務効率化
 従来(支援後)：ルーブリック作成40h(6h) 評価作業140h(22h)=平均85%の業務時間の削減
 同効果による代替作業例：ルーブリックと教育方針のすり合わせ等個別化作業（教員の本質価値最大化）

■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

[生徒]新しい視点の発見が出来て楽しかった。

[教員]今回の探究はとても興味深いものになったし、これからの探究活動に行かしていきたいです！

[生徒]ほかの高校と一緒にグループを作って、意見を言う事が初めてだったけどいろいろな人の意見や自分の意見が言えてとても良い機会になりました。

自分のグループは自分が一番年上でうまくまとめられなかったけどみんな積極的でよかったです。

[教員]他校の方々や、企業の方々とリモートを通して色々話ができいい経験になりました。色々な意見があって面白かったです。ありがとうございました。

[生徒]今までは、塗装に関する事について知ることがなかったけどそれを知るきっかけになったのでよかったです。いろいろな学校のいろいろな人とたくさん意見の交換ができて自分とは違った意見が聞けたし、こういう風にオンラインでもできることがわかっていい経験になりました。

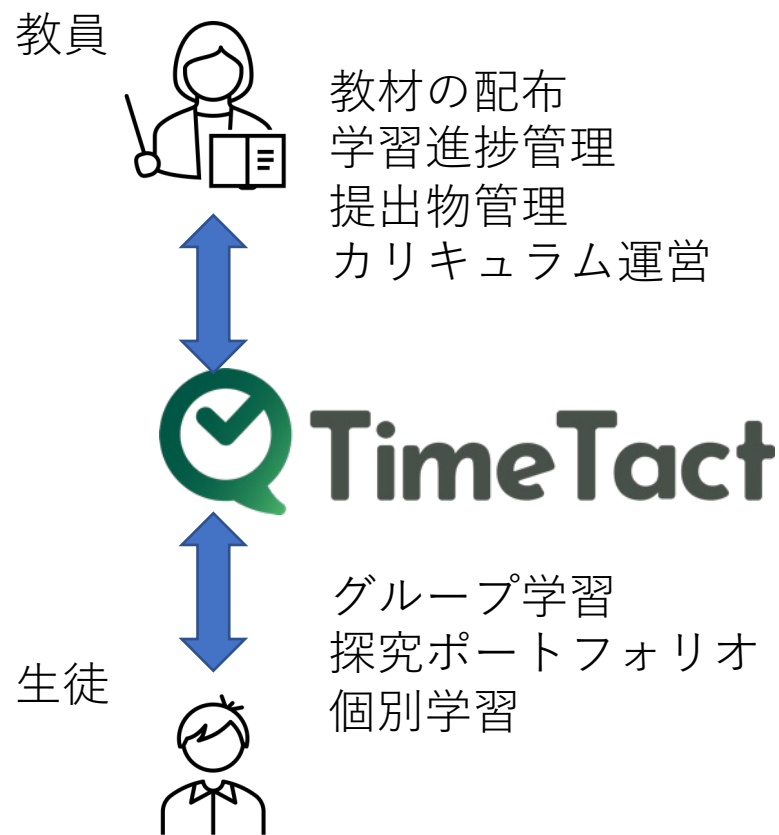
[教員]企業の人や他校の生徒となかなか話す機会があまりないので、とても有意義な4時間でした。このような機会作っていただき本当にありがとうございます。

[生徒]ひなた探求Campを通して世の中への視点を考える機会になりました。今日の活動を自分の学校、そして将来の職場でも生かしていきたいです。とても有意義な時間になりました。ありがとうございました

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

教員が単独のツール活用による探究活動には依然課題がある
移行処置として、自社スタッフが教員作業の代行を行うこともあり、今後プロダクト改修による改善が必須

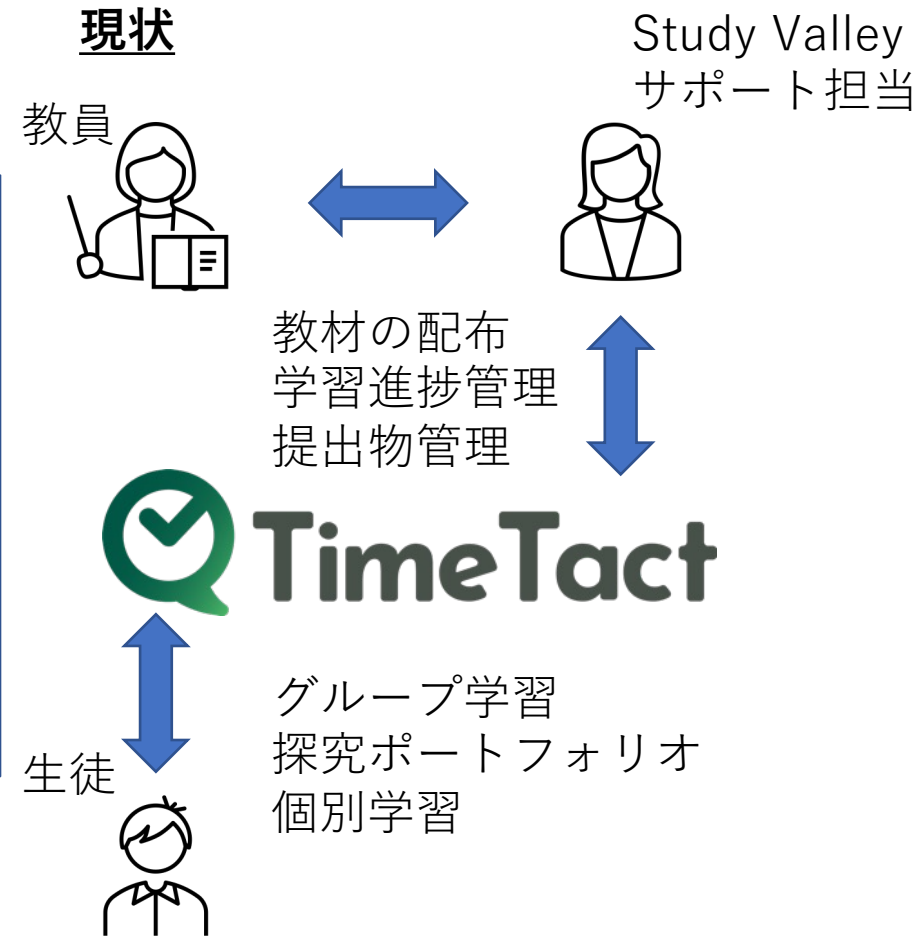
目指すべき姿



ギャップ分析

- ①教員が利用しやすいようなプロダクト設計が更に必要
- ②全教員が使いこなせない限り、サポートによる支援が必要
- ③個別FB等、外部リソースに頼らざるを得ない事情

現状



■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

メールアドレスの未配備（および個人情報保護）によりアカウント発行が遅延
またアカウントログインにも課題がありセキュリティ面との両立が必要

生徒の登録

追加方法

メールアドレスに招待メールを送付

親管理者で設定する（メールを利用しない）

初回ログインに必要な情報を利用者に送付します。メールが受信できるアカウントでないとログインできません。

ユーザー名 *必須

姓 名

メールアドレス *必須

生徒番号

通常WebアプリケーションではEメールにより本人確認やパスワード設定等を行うが、Eメールアドレス非保有者向けに管理者権限設定を可能に変更



アカウントログイン情報忘れが多発し、アカウントロック等セキュリティ施策が返って利用を妨げることに
→ログインセッション情報（クッキー）の延長等、セキュリティ面とユーザビリティの双方のバランスが必要

■ 会社概要

社名

株式会社 Study Valley(スタディバレー)

資本金

185,000,000円(資本準備金含む)

代表者

代表取締役 田中悠樹 (タナカユウキ)

本社

〒134-0083東京都江戸川区中葛西 5-20-14 水戸ビル 2F

問い合わせ先：welcome@studyvalley.jp

事業内容

TimeTact の開発・運用

令和4年度「学びと社会の連携促進事業」の内、STEAMライブラリーの構築・運用業務を受託



外部認証



AWS EdStartに採択
(日本で2社目)



Googleテックパートナー
認証取得済



国際規格セキュリティ
認証取得済

■ 会社概要

STEAMライブラリーの開発・構築および保守・運用を担当
日本のEdTech企業で唯一「東洋経済」すごいベンチャー100に選出

The screenshot shows the homepage of the STEAM Library website. At the top, there is a navigation bar with the logo, a search bar containing the text "キーワードで検索: 例 SDGs", and buttons for "Search", "テーマ一覧", "レクチャー一覧", "ログアウト", and "マイページへ". Below the navigation bar, there are three featured content cards. The first card on the left has a yellow background and the text "から社会づくり". The middle card has a blue background and the text "Jリーグから学ぶ スーパープレーに隠された科学" with sub-headers "蹴る", "止める", "かわす", and "戦術". The third card on the right has a white background and the text "日本の伝統を、あなたは次世代につなぐ料理". Below these cards is a section titled "注目コンテンツ" (Featured Content) with a grid of smaller content cards. The first card in the grid is titled "対してどのか〜" and the second is "グリム童話『ラプンツェル』を科学的に考えよう!".

The image shows the cover of the 'Weekly Toyo Keizai' magazine. The main headline is "「選別」時代の注目ベンチャーを網羅" (Comprehensive coverage of notable startups in the 'selection' era). The magazine title is "週刊 東洋経済" (Weekly Toyo Keizai) with the date "9/17-24". The central focus is "100 すごいベンチャー" (100 Amazing Startups), with "2022年 最新版" (2022 New Edition) written vertically. A red unicorn logo is positioned at the bottom left of the '100' text. At the bottom, there is a sub-headline: "過去掲載の500社を徹底検証「スタートアップ敗戦」への処方箋" (Thorough verification of 500 companies previously featured, a prescription for 'Startup Defeat').

The screenshot shows an article on the Toyo Keizai website. The article title is "Study Valley (スタディバレー) 高校「探究学習」のサポート" (Study Valley (Study Valley) Support for High School 'Inquiry Learning'). The article is dated "2022/09/14 9:00" and is written by "森田 真一郎: 東洋経済 記者" (Shin-ichiro Morioka: Toyo Keizai Journalist). The article content includes a photo of a man in a blue t-shirt with "Study Valley" written on it, standing in an office. The man is identified as "田中氏はエンジニアスタートアップ出資の経験も" (Mr. Tanaka also has experience investing in engineering startups).